

足の血管がポコポコ目立つ…。
青紫色の細かい血管がクモの巣の様に広がっている。
それは静脈瘤という病気かもしれません。

下肢静脈瘤

かし じょうみゃくりゅう

皮膚のすぐ下に見えている血管は心臓に血液を戻す **静脈** (表在静脈) で、足の表在静脈に老廃物を含んだ血液が滞ることで様々な症状が出る病気が **下肢静脈瘤** です。

血管が目立つくらい…と何年も放置しがちですが、放っておくと **かゆみ**、**痛み**、**むくみ**、**こむら返り** (足のつり) を生じ、ひどくなると **色素沈着** や血栓による炎症から **皮膚潰瘍** にまで至ります。

症状のある方、気になる方は
心臓血管外科の受診を
お勧めします



国立研究開発法人

国立国際医療研究センター病院

Center Hospital of the National Center for Global Health and Medicine

〒162-8655 東京都新宿区戸山1丁目21-1 TEL:03-3202-7181

なぜ静脈瘤になるのでしょうか？

静脈の中にある逆流防止弁が壊れると、奥の静脈(深部静脈)から表在の静脈へ血液が逆流します。慢性的に血液が滞ることで血管が拡張、蛇行してきます。その原因の多くは体質、遺伝ですが、妊娠中に発症する方も多く、また長時間の立ち仕事は発症のリスクとなります。時にエコノミークラス症候群(深部静脈に血栓ができる病気)が原因で表在静脈の拡張がみられることもあります。



◆下肢静脈瘤の症状



これらの症状を放置しておくといずれ皮膚炎がおき、さらに治りにくい潰瘍になることもあります。静脈瘤の中で長く血液の流れが滞ってしまうと、血管の中で血液が固まり、血栓ができてしまい周囲に炎症が及びます。これは血栓性静脈炎といい、静脈瘤が硬く腫れあがって痛みを伴います。

◆下肢静脈瘤の治療

基本の治療は**圧力の強い靴下(弾性ストッキング)**の着用です。

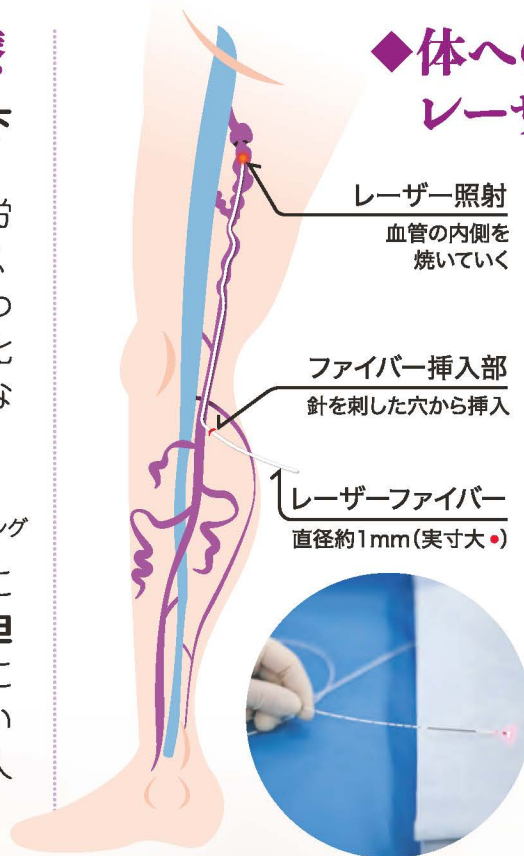


着用は苦勞しますが、症状をやわらげ、悪化の予防になります。

◀膝丈の弾性ストッキング

根本的な治療を希望される方には**手術療法**があり、当院では**負担の少ない血管内治療**を積極的に行っています。また青紫色の細かい血管に対しては、薬を注射で注入し治療する**硬化療法**もあります。

◆体への負担が少ないレーザー治療



レーザー治療(血管内焼灼術)は局所麻酔(時に静脈麻酔と併用)を用いて手術室で行います。エコーで静脈の位置を確認し針を刺して、そこから細いレーザーファイバーを入れて逆流している血管をつぶす方法です。手術翌日から仕事に復帰していただけます。

担当医からのヒトコト

私自身も軽い下肢静脈瘤で夜間足をつけることが多かったので、弾性ストッキングを履いて仕事をしています。下肢静脈瘤は直接命にかかわる病気でないため、受診をためらう方も多いのですが、適切な治療をすることで、快適な生活を得ることができます。迷っている方は一度当科外来にご相談ください。

心臓血管外科 診療科長

井上 信幸

Nobuyuki Inoue

日本心臓血管外科学会専門医
下肢静脈瘤血管内レーザー
焼灼術実施医、指導医

